



# お燈まつりは おとこのまつり 山は火の滝 下り龍



NPO法人 熊野生流俱樂部

2007.3 VOL.2

特集  
男の子・火の子…  
お燈祭り2007報告

●第2回2006熊野ウォーク報告

大阪市北区東天満2-2-3 タイア/レス南森町1003号  
(有限会社環境文化計画内) 〒530-0044  
TEL.06-6354-4166 FAX.06-6357-6041  
<http://www.10.ocn.ne.jp/tamakib/>

廣田 朱美

## ◆出発前から…

「早いもので、昨年の辛い雨の「お燈祭り」から一年、今年は何となく「お燈祭り」になるのか？祭りの日が近づくにつれドキドキ…。例年、他府県から参加する人々の為に新宮市の市役所が手配をしてくれる装束や松明、なんと今年も各自で手配してね…と言ってきた。確かに熊野が世界遺産に登録されてから祭りの参加者は増える一方で対応が大変なのであるか…そのうえ、地元の有志の人々が行っていた大浜での禊も場所を変えたとの報。遠い地より「お燈祭り」に熱い想いを抱き参加する我々に何ともしない対応。そんな中、国道169号線がガケ崩れの為に通行不可能のニュースが飛び込んできた。すでに祭りに前にして、ハードルが次から次とやってくる！予定ルートを変え、禊は我々だけ

で決行する事に決め、諸々の手配を済ませ、とうとう2月6日を迎えた。

朝7時過ぎには参加者・スタッフ総勢18名が揃い、2台の車に分乗。心なしか祭りを前にして高揚した面持ちの参加者、何が起きるかわからないという緊張感を抱えるスタッフ連。車は一路、新宮を目指し大阪を後にした。予定通り12時前に新宮に到着。男性陣は禊のための着替えを体育館で、女性陣は焚き火の準備などをするために浜へ…。

## ◆おだやかな禊ぎ

すでに浜には大勢のギャラリイが待ち構えていた。中には「熊野写真塾」なる団体、世界遺産取材の外国人カメラマン、テレビ局、関東から禊に参加したいという人もいて、もし我々が例年通りここで禊をしなかつたら、この人達はどうなつたのであろうか？そんな思いを抱きながら、神官の福井鉄氏を迎え大浜での禊が執り行われた。締め込み一丁で凛々しい男性陣、背景の大海岸がほんとに絵になる光景だ。お天気は2月の上旬とは思えない穏やかさで風もなく、暖かい。いつもなら寒さで顔がこわばっている男性陣も余裕の表情。焚き火もあまり必要がなさそうなくらいであった。禊が終わると着替えを済ませて市内のレストラン「留異」へ。お待ちかねの「熊野薬膳」の昼食を済ませる。「薬膳料理」

## ◆いよいよ祭本番

いよいよ上り子の男性陣は装束の支度にかかる。女性陣は代参松明の準備等を手伝う。それまでは普段と変わらない街の様子も夕闇が迫ってくる「祭り」のムードがじわじわと高まってくる。白装束に荒縄を胴に巻き付けた上り子達は松明を持って阿須賀神社、速玉大社、妙心寺に参拝し、石段を登り神倉山上をめざす。途中では振る舞い酒もあり、女性陣も途中まで同行した。「たのむで！」の掛け声と松明をおつけあう音が次第に大きくなる。何処から？と思うほど上り子の数が増え、小さ



子供も父親に手を引かれて  
いる。

### ◆「お帰りっ！」

男性陣が538段の急な石段を必死に登っている頃、女性陣は優雅に「留異」でティータイム。でも内心は「どうか無事に帰ってきてね」と祈ってる。裏手の非常階段から神倉山が一望できるのだが、19時半過ぎには火の手が上がり、瞬く間に山全体に広がった。上り子は燻されているだろう。開門も近い：山のおもとへとお迎えに急ぎ足になった。『お燈まつりは おこのまつり』

山は火の滝 下り麓(新宮節)急勾配の石段をいっきに駆け下りてくる男衆、次から次へとどんどん降りてくる。今か今かとふもとで待つ私たちの元へ10人のメンバーが無事戻ってきた「お帰りっ！」皆さん、ホントいい顔してます。ちよつぱり羨ましくなります。お尻に火がついて大変だった



人もいきましたが、とにかく全員怪我もなく下山できたことに感謝。

### ◆「サカムカエ」

地元では自宅に戻った上り子を「サカムカエ」と称した酒宴で祝う風習がみられるそう。我々も宿泊地である熊野川温泉「さつき」へと帰路を急ぐ。まずは温泉でほつり。部屋は去年増築されたばかりの棟で広くて綺麗。遅い時間だったが気兼ねせず使えた。知り合いの魚屋さんから差し入れのおいしい刺身やスタッフ特製の鍋料理にお酒も進み、夜はどんどん更けていく。参加会員のKさんが上り子さん達にマツサージのサービスまで

あつて、あまりの気持ち良さにみなさん撃沈……。至れり尽くせりの女性陣の役どころ。宿には熊野の仙人さんも立ち寄つて下さり、ケーキやコーヒの差し入れをいただきました。

### ◆二日目も良い天気

翌日はまず神倉神社へお礼参り。昨夜の祭りの後片付けを有志の方々が黙々とされる中、女性陣も一緒に上る。見上げるとやはりすごい石段に「よしっ！」と気合を入れて進む。昨夜の上り子達のエネルギーがまだ、そこかしこに漂っているかのようでもある。

やっと辿り着いた山上で参拝を済ませる。しかし登りより下りの方が大変だという事を思い出した！慎重に一歩ずつ降りる。ふもとの社務所の



前では恒例のおぜんざいが振舞われており、ホッと一息。

### ◆癒される空間

次は「花の窟神社」へと車を走らせる。そこで松本宮司さんと落ち合い、ツアー2日目のメインである山深い井戸川源流の「大馬神社」へと向かう。ここは坂上田村麻呂の伝説に因む神社である。杉の大木が参道に立ち並び、奥の社殿へといざなう。全員で松本宮司さんの祝詞による参拝をし、社殿の脇より道なき道を進む。すると落差10mほどの下に20mの一枚岩があり、その上を滝が一気に流れ落ちる、神々しい雰囲気の大馬の清滝がある。水量が多い時にはミスト状態になるらしい。かの玉置神社の神職も禊に訪れるそうだ。時間的には昼時を過ぎて空腹のはずなのに、みんなそれぞれに和んでしまい、いつまでもここに居たい気分。まさに「癒される」という感じ。後ろ髪ひかれる思いで神社を後にし、



車は42号線をひた走り尾鷲を抜けて大宮大台ICから伊勢道、阪名道を通って無事に大阪へ。

本当にお蔭様だと思ふ。多くの方々にお世話になった。最後の最後まで何かあるんじゃないかと疑心暗鬼ではあったのが、とにかく今年のお燈祭りツアーはすんなり終わってしまつた。さて、来年はどうなるのやら…。

穏やかであつた気候は地球規模で考えると温暖化が気がかりだ。「心配」とは神様の仕事、神社でのお祈りは個人の私利私欲ではなく世界規模で、自分の名前、住所を神様には伝える事々々、松本宮司さんのお話のほんの一部である。終



# 男の子・火の子： 御燈祭り2007

スタッフ瓦版



●2007年2月6日暮れ時！夕風で静まりかえった新宮の街に、黒潮の海からの息吹きの風と共に「御燈祭り」は始まった。

先立つこと正午に、王子が浜で禊ぎ：もう20年近くも、同じ日の同じ時刻に締め込み一つで、この浜に立っているが、禊ぎにならないほどの小春日和の温かさに、今年は何か大いなる異変を肌身を通して感じた。目の前にうち寄せる黒潮の海は、世界の七つの海を越え遙か彼方の北極海にもつながっていて、そこで棚氷が崩壊し自分の棲んでいる水に上がれないシロクマ達が、海を100km泳いでも結局水が無く、上がれずに溺死する悲しい姿が脳裏を横切る。うち寄せる荒波に大祓祝詞を唱えながら、あらためて自らを省みて、森羅万象の平和安泰を祈った。夕暮れ：白装束に荒縄を巻き、ハナが風に舞う大松明を掲げて颯爽と歩く男達の勇壮な姿が、小生はこよなく好きだつ！正にこれぞ、熊野の再生に

命を懸けた「死出の姿」か？…この時点ですでに「今年の祭り」で死んでもいい！と、今まで何度も思ったことがある（笑）

これまでも「なぜ御燈祭りに上るのか？」と、よく聞かれることがあるが、「厄除け祈願」と応えているが、これはあまりにも他力本願な安易な答えかも知れない。実のところは、男の子の役どころとしての「大和の魂（縄文の魂）」を、呼び起こしそれを磨くためなのである。「たのむでえー！」「ワツショイ！」「ワツショイ！」と言うかけ声と共に山に上がり、男達は煙に炙られながら松明に火を付け、そして魂に火を付け、光り輝いて：闇に横たわる急峻な石段をもろともせず、ふもと

の「大和撫子」が待つている現世に還つて来るのである。陰と陽の見事な役どころのバランスを、暗黙の内に継承している古式ゆかしい火祭りを知る。「御燈祭りは 男の祭り 山は 火の滝 下り籠：熊野に春を呼ぶ前に、暖冬で小春日和が来てしまった今年の御燈祭り：来年は、果たしてあるのか？

【満仲雄二】

●今年の「お灯」はよく燃えた。去年は雨の中でのお灯まつりだったために、松明に火を着けるのが大変だった。最初の松明に火が着いてもなかなか回つてこない。やつと着いたと思つてもすぐに消えてしまう：とにかく大変だった。しかし今年の火の勢いは凄かった。火が運ばれてきてから全体に広がるまでに10分とかからなかつたと思う。火が回ってくるまでに何度か風が吹き、そのたびに一気に燃え上がり、装束に火が燃え移り火だるまになつて

いる人を何人も見た。今回の参加者で装束のおしりが完全に燃えて穴が開いた人も居た。これだけ燃えが良いと「お」。今年は勢いが良く、いい感じ!!」と思う反面、去年の火の回り具合が、去年の暗い世相を反映しているのではないかと思つてしまうと、今年の火の勢いはどんな世相に反映するのか：。できれば「良い勢い」に反映される事を願つて、持ち帰った松明を玄關ドアの上に吊しました。

【加藤孝吉】

●今年は18人での楽しい旅になりました。出発前に①新宮市の受入れ体制の変化②地元の方々が視場所を変えることが判明③数日前の国道崖崩れによる通行止め等 懸案事項が次々と起こり、「今

年のお燈は波乱含み？」と思われました。でも、波乱は事前に終つていたようでした。「変化をしなやかに受けとめること」と「準備して臨むことが大切」、と改めて学んだような気がします。ところで、5年ぎつくり腰1名、06年、ぎつくり腰1名、07年、肋骨にヒビ1名とスタッフの誰かはいつも不安を抱えながらお燈の日を迎えています。毎年参加されているO氏も05年はすごい風邪ひきで、2日目はダウンしてツアーから離脱されました。なのに、誰も「今年は何も体調不良だから上り子はやめておこう」なんて気持ちにはならないようなのです。必死で治し、痛みをおさえて、2月6日を迎えている：。何か駆り立てるような魅力が「お燈祭り」にあるのでしょうか。

【久保山 緑】

●今年 皆勤十二回目とあいなりました。ご存知通り、去年は稀な雨のお燈でしたが今年には気温が異常に高く、火もよく燃え、稀な火のお燈でした。世間は大体、十進法なので、今年と去年が私にとつて参加の節目ということになってまして、この様な事態と自分の節が重なるのは、大変 感慨深いものがありました。やはり火水ーカミこと!!

【山本英世】

●今年のお灯まつりは順調すぎるくらい予定通りに進み、今まで行く度に何か起きるのではないかといつも心配しながら、また実際に起きた事も多々あり、今回ツアーを終えた当日は逆になんとなくぼんやりとした感覚がありました。でも時間が経つにつれお祭りは本来こういうものだ、と何事もなく終わったことを素直に喜べるようになりました。私にとつてお灯は1年の中でも超重大イベントですが、地元の方々にとつては毎年恒例のお祭り（勿論準備等は大変でしょうが）、ある意味淡々とこなさないと何百年も何千年も続かさないのだと思います。大変なことがあつても何もなくても、世界遺産になつてもならなくても、テレビの取材がきてもこなくとも、ただ淡々と成すべき事を行い守るべきものを守る、そんな生き方をしていく独身の男性を探しております。

【大島欣子】

●今年、ついに禁を解いてしまった禊ぎへの参加。なかなか快感、癖になりそうです。何事も神事は修行とお祭りのお先輩方から進められておりましたが、頑なに受け付けなかつた。清められました。邪心の身体に喝を入れられました。

【國方幸二】

# 熊野生流倶楽部 2007年前半イベントスケジュール

## ◇花見の会



- 日時：3月31日(土) 12:00～16:00
- 場所：天満橋 大川川岸(昨年と同じ)
- 会費：2,000円
- ※食事・飲み物はこちらで用意しますが、差入歓迎です。
- 申込み締切り：3月25日(日)

## ◇熊野ウオーク Vol.2+ワープ



鳳大社から海南市・藤白神社までは熊野街道にちなんだ神社や旧跡が少なく長距離になるので、自動車での区間を走ることになりました(一部徒歩)。できればすべて徒歩で行きたいと思っておりましたが、年2～3回の開催では難しいこともあり、ワープすることといたしました。有志を募っての開催となりますので、ご希望の方はお申し出下さい。

- 日時：4月21日(土)
- 集合場所：大阪中央郵便局前 9:00
- 会費：実費精算

## ◇熊野ウオーク Vol.3

- 日時：5月下旬(予定)
- 場所：海南市・藤白神社～終着点(未定)
- 会費：1,000円(資料代等)+実費精算(交通手段・未定)

## ◇熊野ミニツアー Vol.2



今年のお灯まつりツアー2日目に寄った「大馬神社」を訪ねます。とても厳かな雰囲気と、すばらしい滝のある神社です。時間の流れが止まってしまったように感じられ、いつまでもそこに居たいと思ってしまう場所です。

- 日時：6月下旬(予定)
- 場所：大馬神社、熊野川下り、宿泊「さつき」
- 会費：1～1.5万円(予定)

## ◇熊野大花火・ 観覧ツアー

- 日時：8月17日(金)～18日(土)
- 場所：熊野市・七里御浜海岸 他、宿泊「さつき」(予定)
- 会費：会員29,000円、一般30,000円

※最高の見物席で日本有数の最大規模の大花火がご覧いただけます

※上記イベントは予定であり、天候・異変で余儀なく変更することがあります。事前にホームページや事務局にご確認ください。

※事務局：TEL.06-6354-4166 ●ホームページアドレス <http://www.10.ocn.ne.jp/~tamakibk/>

### あとがき

前号発刊後、熊野生流倶楽部情報誌「生流曼荼羅」が間が空いて刊行されました。年四回を基本ペースのお約束がずれ込み大変申し訳ありません。今号は2月の新宮市・神倉神社のお燈祭りの記事を中心に昨年11月に敢行した第二回熊野ウオークの報告を編集させていただきました。今年の倶楽部催事・イベントの情報はホームページでもお知らせいたしております。是非ご覧ください。今後とも、投稿記事や特集記事など、内容を充実させて会員の皆様のお手元に届くように努力いたします。

熊野生流倶楽部「生流曼荼羅」  
編集部

### 告

#### 【会費納入のお願い】

当会の年会費は1月1日～12月31日の1年間となります。会員を継続される場合は年会費3,000円の納入をお願いいたします。

会費振込先  
郵便局 00980-6-116228  
特定非営利活動法人 熊野生流倶楽部

※6月1日までに会費の納入が無かった場合には、特別の事情がある場合を除き、退会扱いとさせていただきますので、ご了承下さい。



# 第二回「蟻のままの熊野詣で」を終えて……!

特定非営利活動法人  
熊野生流俱樂部代表 **満仲雄二**

## 住吉大社から大鳥大社

今回は、春の熊野ウオークで歩いた「天満橋から住吉大社」10 kmを引き継いで「住吉大社から大鳥大社」までの12 kmの行程を歩きました。当初の予定が小雨で、晴耕雨読として無理せず延期になったので、リベンジの熊野詣でウオークとなりました。もう11月も下旬に近いと秋の夕暮れは、つるべ落としに陽が暮れて暗くなるので、ひたすら大鳥大社を目指して足元が明るい内にと、全体行程として早足のウオークだったかも知れません。



## 大歳神社のお愛し星

四天王寺も安倍晴明神社も住吉大社もそうですが、熊野街道が、神社やお寺の奥や裏から境内につながっているのが、根の国底の国熊野らしさを象徴していて大変面白いところです。住吉大社・反橋から境内を通り抜け、良(鬼門)の方角から出発するとすぐに熊野街道。出たところには、奈良の猿沢池・京都の大沢池に並ぶ近畿の名勝であった浅沢池があります。そこは杜若(かきつばた)が美しく咲き乱れ、万葉の歌人にも愛された場所であり、住吉区民の花の由来にもなっています。そこからすぐ南には、大歳神社があり「おいとしほし社」には、天



から落下した隕石を願い事の守護神として祀ったと伝えられています。「お愛し星」とも「老い年星」とも言われ、古くから庶民に親しまれており、熊野詣での人々も、この辺りからまだ13日もかかる熊野への旅の安全と成就をここで祈ったのだらうと思います。



## 道と文化の交差点

さらに南下して後醍醐天皇の行宮があった若松宮(津守王子跡)を経て、二気に大和川まで出ると、もうすぐそこに堺の街を望むことができます。熊野街道のルートは、時代によつて小栗街道とも紀州街道とも融合したり、戦災で消失したこともありその行程はともと堺は天下の台所として、大和の都への日本最初の官道・竹内街道や長尾街道をはじめ、高野山に向かう西高野街道

などがあり、道と文化の交差点だったと言えます。大阪市と堺市を分ける大和川にかかる遠里小野橋の真ん中からは、遙か仁徳陵が小高い丘のように見え、古にも様々な目的を持って道を歩む人々の心に感動を与えたと思います。



## 陰陽五行の五亡星

余談ですが、遠里小野の里が大阪にも堺にも同じ地名がある理由は、堺の港を封印するために、時の権力によって意図的に改修・迂回された大和川によつて、大きく分断されたからなのです。掛け替えな大和川が運ぶ土砂が港に溜まり、港が浅くなって大きな貿易船も入れず、環濠都市として自らが水によつて護っていた自治自由の街は衰退しました。それは陰陽五行の五亡星の相克原理(土→水)で、土砂によつて完全に封印された歴史なのです。出る杭は打

## 境王子

遠里小野橋を堺に渡りすぐ堤防沿いから、またひたすら南下し、南海の浅香山駅を経て境王子跡に到着。ここは王子ヶ飢公園と言う一風変わった名前がこの付近に境王子があったとされています。この石碑は、熊野詣での目的地である、和歌山県田辺市熊野本宮町からの寄贈で、堺市とは姉妹都市の関係にあります。今でこそ、このあたりは静かな住宅地ですが、昔は一面の田んぼや畑で、境王子で休憩したり食事を取ったりしたのだと思われれます。

## ■平成18年11月25日(土)行程

- 10:00 住吉大社スタート
  - 10:10 浅沢池・大歳神社
  - 10:30 止正呂比売命神社(津守王子跡)
  - 11:30 安楽寺・極楽寺・熊神社
  - 11:20 遠里小野橋
  - 12:00 堺王子碑
  - 12:15 方違神社
  - 12:30 E・H製菓・反正陸展望
  - 13:50 ◎昼食・休憩
  - 14:50 仁徳天皇陵・丸保山古墳・万葉歌碑
  - 15:30 環濠跡・南宗寺・山之口橋
  - 16:00 石津神社
  - 16:30 大鳥神社
  - 16:30 解散
- ※全行程・12 km  
前半(住吉)方違 5 km  
後半(方違)大鳥 7 km

## 方違神社と反正天皇陵へ

境王子から5分ほど南下すると、こんもりとした森に囲まれた方違神社に到着します。摂津・河内・和泉の国の境界に位置することから、境と云う地名になつていますが、この方違神社は、引越しや家の新築・旅行など方角による災難を祓ってもらえる神様として有名です。出発点の住吉大社から歩いてちょうどお昼になりましたが昼食を取る前に、このすぐ西隣のEH製菓のご好意で建物の3階から、あまり見ることが出来ない位置から、反正天皇陵の優雅なたたずまいを眺めさせて頂きしばし感動：さらに千利休ゆかりの茶室やキリシタンの燈籠などがある庭を見せて頂き、ミニ歴史散歩が味わえた感がありました。



## 古代の主要路が交錯

方違神社からは、堺市が歴史散歩のために設置している「てくてくロード」を歩きます。このあたりから実際の熊野街道がどこを走っているかは、今も定かではありません。それは堺の古道として、長尾街道や竹内街道、高野街道や紀州街道など、古代の主要路が交錯しているため、時代によって道が重複するからなのです。路面の敷石道標を頼りに歩いていくと、所々に熊野街道のサインがあつて、看板を見てホッと安心する場面も多々ありました。



## 世界最大級の仁徳天皇陵

どんどん南下していき広い国道の陸橋を渡ると、眼下に壮大な森が見えてきます。世界最大級の墳墓として有名な仁徳天皇陵(大仙古墳)なのです。エジプトのピラミッドや中国の秦の始皇帝の陵墓と並ぶ三大巨大古墳の一つで、人工衛星のランドサットから肉眼で見えるほどの大きさと言われています。周が約3000mもあり、その仁徳陵の西側を陵に沿って南下します。堀を隔てた御陵は、威厳のある静けさを感じますが、目線で見る範囲はどうしても小山にしか見え、あの鍵穴のような前方後円墳の姿が一望できないのが心残りでした。



## 自由都市堺のシンボル

ここからはひたすら御陵通りを海に向かつてまっすぐ進みます。阪神高速道路を越えると旧堺の街並みに入り、そこには自由都市堺のシンボルである環濠跡(土居川)が一部保存されています。すぐ裏手の南宗寺に寄り道すると、ここには千利休門のお墓があり、千利休の師匠の武野紹鴎はじめ、茶道の祖とされる人々がここで任職から禅の思想を学んだとされ、堺の茶道の原点に触れたような気がします。このあたりでは、熊野街道を別名小栗街道とも表示されています。千葉から熊野まで善男善女に引かれて、熊野本宮の再生の薬湯(つば湯)を目指した、歌舞伎にもある小栗判官物語の主人公小栗判官が通った道なのです。



## 和泉の国一之宮大鳥大社

夕暮れも迫ってくる中、ひたすら熊野街道の碑を二つと確認して「あーこれが熊野に通じている道だねー」と納得しながら町を南下し、途中えべっさんで有名な石津神社に寄りもう少しの旅の無事を祈願。石津川の戎橋を渡り20分ほど歩くと、最終目的地の大鳥大社に到着しました。和泉の国一之宮だけに、15000坪と言う広大な敷地で、この森は千種の森と呼ばれています。1850年前の白鳥伝説のヤマトタケルノミコトが祀られていて、ここが大鳥の新王子とされています。すっかり夕暮れとなりギリギリ記念撮影もでき、ふと熊野詣でをしていた昔の人々も、これからの熊野までの長い道のりを「自分も白鳥になつてワープして飛んで行きたいな」と思つたのではないかと、遠い昔に想いをたせながら、無事に秋の一日の熊野ウオークは幕を閉じました。

今回のウオークは、前半の住吉大社から方違神社までが約5km、後半の方違神社から大鳥大社までが約7kmの行程でした。



終